

平成 24 年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブコース（がん看護実践能力強化コース）セミナー アンケート集計結果

日時：2013年3月3日（日）10:00～12:00 13:30～16:00

場所：TKP 三宮会議室 会議室 3

テーマ：

『がん医療における最新情報！がん看護に必要な“遺伝学”と“遺伝子検査”の知識

午前「がん医療に必要な遺伝学の知識」

午後「乳がん, 大腸がんの遺伝子検査の意義, がんの分子診断, がん遺伝カウンセリング」

講師：田村和朗先生（近畿大学 理工学部 生命科学科）

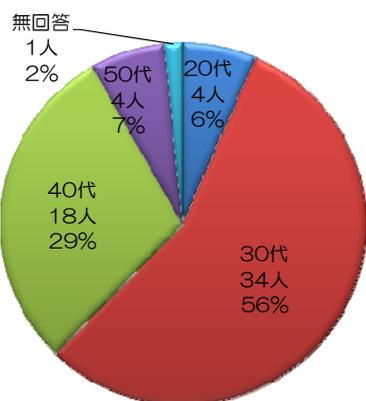
受講生：71名（午前 59名、午後 58名、のべ 117名） アンケート回収：61名（回収率：86%）

主催：兵庫県立大学看護学研究科 代表：内布敦子

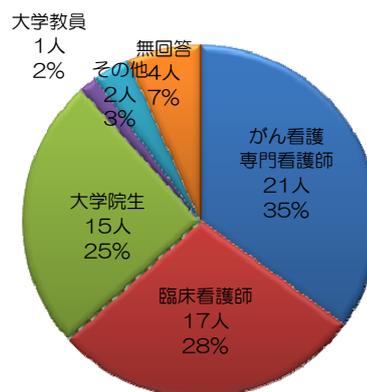
＜アンケート集計結果＞

Q 1：最初にあなた自身のことについて、お尋ねします。

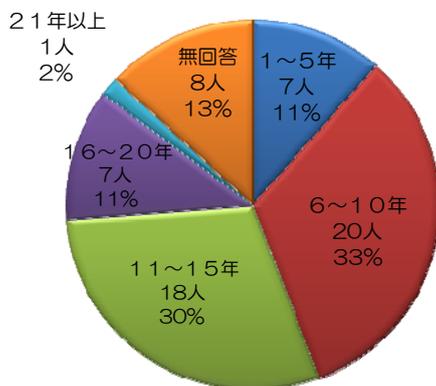
年 齢



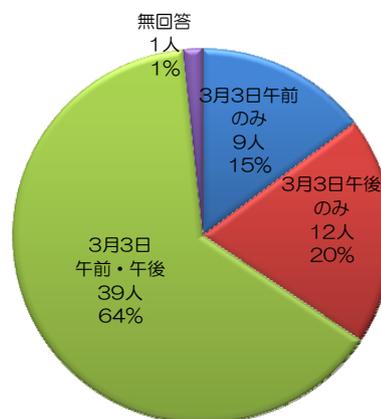
職 種



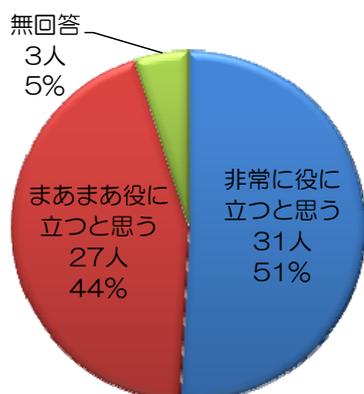
がん看護経験年数



Q 2：参加時間



Q3-1：今回参加されたセミナーは今後役に立つと感じますか。



Q3-2：企画に参加してあなたが感じたことがあれば自由にお書きください。

①講義内容に関して

- ・HBOC のところで、知識などが整理、補てんできました。ありがとうございました。
- ・デスマイドが遺伝性腫瘍に関連しているということを初めて知りました。
- ・乳がん、大腸がんの治療を組み立てるうえで必要とされる遺伝子検査についてもう少し知りたかったです
- ・遺伝学をもっと知りたいと思いました。とても興味深かったです。
- ・遺伝カウンセリングについて全く知らなかったので、よい機会になった。
- ・遺伝性のがんに関する知識や傾向を知ることができ、とても興味深い内容でした。
- ・遺伝カウンセリング、今後さらに知識等必要になると感じました。とても難しい問題でもあると感じました。
- ・とても興味がある内容であったので、参加してよかった。しかし、短時間で理解できる内容ではなく、かなり高度であった。(特に遺伝性がん)
- ・遺伝と遺伝子(予後不良遺伝子や変異、転座など)はちがうのだということがわかりました。
- ・遺伝性がんの背景を知っておく必要性はよくわかりました。ですが、リソースを知り、つなげていくことが大事だと思います。
- ・特に乳がんは再発について、早期発見にエビデンスはないと位置付けられており、積極的に検査をしていないので、そのような人で BRCA 変異同時に持ち合わせていると、発見が遅れてしまうかも、と感じました。標準治療との組むあわせが難しいですね。
- ・同じカウンセリングという言葉を使っているけど、職種や立場によってさまざまだと感じた。
- ・ロールプレイは考えやすくよかったと思います。
- ・ロールプレイで実施のカウンセリングの進め方を見ることができて、非常に参考になりました。
- ・遺伝学は、深く、もう少し基本的なところから学べればよかったかなと思います。

- ・家系図をとった後の治療についても知ることができると、よりよかった。
- ・乳がん患者と関わる人が多いので、もう少し BRCA1、BRCA2 についての情報が知りたかったかなと思いました。
- ・スライドが飛びすぎでついて行くのが難しかった。ロールでの事例は理解しやすかった。

②今後の活用

- ・遺伝子レベルでの検査ができるようになり、患者さんにどのように説明をしていくのか、家族にどのように伝えるのか、悩むことが多くなりました。本日の講義の内容を明日からの臨床にできるだけ活かしていきたいと思います。
- ・今後、遺伝子診断が医療に活用される中で、生まれてくるだろう問題にも視野を広げてゆきたい。
- ・遺伝子検査がもっと簡便で身近なものになれば、がんの早期発見や予防につながると思います。
- ・遺伝子検査について、臨床（外科病棟）で話題になることがなかったので、新たな発見が得られました。
- ・特に遺伝子の検査等は、医師にとっては当たり前になりつつあるようですが、看護師は知らずにケアしているので、少しおいてけぼりになっている感じを受けました。
- ・遺伝の話は、がんの分野でも非常に注目されてきてはいるものの、臨床的には、知識不足やシステムの問題で見逃されていることが本当に多いと痛感しています。自施設での活動に役立てようと思います。
- ・遺伝についてはこれまで詳しく勉強できていなかったもので、今回の企画は非常に興味深く、参加させていただきました。正直難しく、理解は十分ではなかったですが、今後の学びへとつなげていきたいです。
- ・看護の視点で患者をアドボケートできるよう支援していかなければならないと思った。
- ・若いがん患者さんがたくさんおられます。家族歴の聴取がこれまでより丁寧にとる必要があると感じました。
- ・一般病院では、焦点の当たらないテーマであり、大変参考になりました。しかし、大学病院だけでなく、当院の患者様にも必要であり、専門的な人的資源がないため、どのように専門施設につなげていくかが問題だと感じました。
- ・外科病棟で勤務しており、家族性、遺伝性、乳がんについて患者さんやご家族の方から質問されることがあり、本日学んだことを活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・これからの遺伝カウンセラーなど、この分野の知識や対応のしかたについてもっと知っていく必要があるなと思いました。ありがとうございました。

③セミナー運営・プログラム内容について

- ・学ぶ機会が少ないテーマですが、医師の意見もさまざままで自分たちも正しく深い知識を持ってケアに結びつけないといけないと強く感じました。ありがとうございました。
- ・今後この知識をどのように活用していくかは、また自施設に帰って再度学びながら考えたいと思う。
- ・自分で勉強するには難しいテーマをわかりやすく説明してくださり、理解しやすかった。
- ・知らないことがたくさん知れたので、参加できてよかったです。
- ・とても興味のある内容でしたので、勉強になりました。
- ・よくあるセミナーや講習会ではあまり取り上げられていないが、臨床の現場で確実に広がっている分野のお話でしたので、とてもためになりました。
- ・とても貴重なデータ、資料をもらえたことは今後の実践に置いて役立てられる強みになったように思います。ありがとうございました。
- ・今後の参考になりました。ありがとうございました。
- ・資料がしっかり冊子で作成されていたため、持ち帰って再度学びを深めたいと思います。
- ・実際にロールプレイがあったのでとてもわかりやすかったです。
- ・自己学習をしなければならないというきっかけにはなった。相談へ対応できるよう、自分の中で整理をしていく必要がある。
- ・最後の質疑応答で、気になっていたことが分かってすっきりとしました。講義は大まかなことしか理解できず、何個か聞き逃し理解に至らない部分があった。
- ・大変勉強になりました。お世話いただきありがとうございました。
- ・参加させていただいてありがとうございました。
- ・午前の基礎的などころから、講義を聴かせていただきました。わかりやすく説明して下さったので、遺伝と聞くと苦手意識がありましたが、整理ができて参加してよかったですと思います。

Q4：がん看護実践において、現在どのようなことが課題としてあげられるでしょうか。

また、それを解決するために必要な情報、知識はどのような内容でしょうか。

Q4-1：がん看護実践上の課題をおかきください。

- ・医師が治療をうけたことによる効果やBSCへの説明がなかなかできない。
- ・現在のところは、患者から質問されたり相談されたりはしないが、「この人はもしや？」と思う方はいるので、対応できるよう準備していきたいと考えている。
- ・遺伝、免疫に関する知識をDrももっとつけてもらえないと、Drで患者のニーズが止まってしまう。看護外来に来られてもDrとの調整に苦労する。
- ・緩和医療の早期介入
- ・BSCへ移行した際に、緩和へ移行することが多く、医師や他部署との連携と協働の強化、システムの構築が必要ではないかと思います。
- ・外来では時間がなく、がん患者への支援ができにくい状況があります。外来での看護に

ついて知りたいと思う。

- ・ 治験に対するコーディネート（最新治療へ向けて）
- ・ 倫理的な葛藤に直面し、みんなが納得する落とし所を見つけるのに苦慮します。
- ・ 抗がん剤投与管理の看護の質統一について
- ・ 勉強会をしても、実践が少なく、身につみにくい。手順がないとできない。
- ・ 今、病棟にいて感じているのは、本人や家族への IC とそれを調整し、意思決定を支える際の看護師のスキルや倫理的感性を養うことの難しさです。患者さんの病気のステージ、人生のステージ、家族との関係を加味して「果して何が本人にとってベストか」を考えるための指標に関して学ぶ必要があると思います。
- ・ がん患者さんには医療者が気にかけて対応できるが、忙しい臨床の場で家族へのアプローチ、必要と思われるフォローができない。特に若年性のがん患者さんの子どもさんへのフォローをどうするかが課題だと思います。
- ・ CN、CNS のコラボレーション
- ・ 医師との協働方法について
- ・ 遺伝情報の取り扱いについて
- ・ 看護に哲学的要素を取り入れるにはどのような方法が適しているか。
- ・ どんどん進化する治療、診療の基本的知識についていくこと
- ・ 患者、家族の不安、疑問を整理して明確にすること
- ・ 相談に対して、エビデンスのある情報を提供し、不安を軽減したり、次のステップへつなぐことができる。

Q4-2：今後、セミナーで取り上げて欲しいテーマをお書きください。

- ・ CNS レベルでのフィジカルアセスメント
- ・ 現場で活かせるがん化学療法看護、副作用マネジメント、症例検討など。
- ・ がん看護専門看護師の役割の中の一つずつ知識をアップデートしたり、現状の共有
- ・ 倫理調整
- ・ サイコオンコロジー
- ・ オーダーメイド医療
- ・ がんになった時に、子どもにどう伝えるのか。
- ・ どのようなサポートが大切で、時に関西で行っている、そのようなプログラムについて。
- ・ がん看護の病院での教育体制、内容など。
- ・ 意思決定支援に必要な知識（初発、再発、終末期、臨末期）とスキルと感性。
- ・ 家族看護
- ・ 子どもへのサポートについて
- ・ ケモ Pt の不妊治療、生殖について
- ・ 精神腫瘍に関する看護のテーマ
- ・ 慢性疾患を併存しているがん患者のケア、看護実践

- ・小児に関すること
- ・がん遺伝のことをもう少ししてほしい
- ・遺伝についての看護の側面から議論が出なくとも、話し合えるとよいと思いました。
- ・遺伝外来実践などの具体例などを知りたい。
- ・がんの予防（食事、生活など）
- ・社会資源（医療費、治療中に活用できる制度）

Q5：その他意見など

- ・この1年、誰か看護師が遺伝カウンセリングを専門に勉強に行かないといけないのではないかという意見が何度かありました。今日の講義をもとに改めて検討したいと思いません。
- ・今日の先生はカウンセラーを養成しているとはいえ、遺伝性と分かっている人、かなり疑わしい場合のみの対応にしかならないと思ひ、臨床にいかせられるとは思えない。
- ・臨床Nsが対象なのはよくわかりますが、教員はどの立場をとったらよいのか、迷って基礎コースを申し込みました。午後の受講も可能なら、明記いただけると幸いです。（スケジュールをそのように組んでしまいましたので）
- ・遺伝学の知識は重要ですね。少し難しい部分もありますので、何回かシリーズ化していただくと、理解がさらに深めていけると思ひます。

以上